

第六期 第一回講座
言語教育におけるICTの利活用
—AI.MOOC を例に—

葉淑華教授

(2023.09.14)

要旨

一、教育の変革

1. AI が人間の仕事の形を変えた

まず産業革命の発展を述べ、特に 20 世紀の後半、インターネットが発明してきてから、情報と通信技術 (ICT Information and communications technology) の急速発展と普及である。そして 21 世紀における極端な自動化、人工知能、ビッグデータなどの産業革新を説明し、情報社会である第 3 次産業革命と、第 4 次産業革命である人間を中心に据えた新しい経済社会「Society 5.0」の内実を分析した。将来、AI は顧客サービス、銀行業務、飲食業や旅行業、販売業などを取って代わるのではなく、人間の仕事の形を変えたことを強調した。また、『天下雑誌』の報道を引用し、将来の 5 年間、教師が学生にどのように協力し、将来に備える能力を育むかを提案した。将来の能力を教師はまず自ら学習し、5 年後の自分の仕事はどこにあるかなど重要な問題についても考えるようと呼びかけた。

2. 教育方法の進化

情報と通信技術の発展、特に人工知能の進歩が、教育の目的と方法に重大な変化をもたらしている。他の教育アプリケーションの使用も、教室での情報化と学習方法、そして教師の指導方法を変えつつある。教育分野では、人工知能は授業方法の進化に活用され、教育のあらゆる分野に広がりつつある。

3. 言語教育の目的

ツールとしての機能的な目的として、文法、語彙などの知識を提供し、学生に現実の世界で言語を使用させるとともに、広い視野が得られる。異なる文化的背景を持つ人々と協力して世界の問題を解決し、良好な人間関係のスキルを身につける。さらには人文科学と社会科学のスキルを培い、共に世界的な課題の解決に取り組み、より素晴らしい社会を作っていく。

二、言語教育での AI の活用動向

1. 日本語知識、日本語教育、およびコンピューターの知識

将来の言語教育では、武田 (2020) が述べたように「今後の言語教育においては、教師も生徒も個人化された試験問題の自動生成、エッセイの自動採点、

文書校正、機械翻訳における後編集などのツールを使いこなすスキルを習得することがより重要視されるようになるであろう」という。

2. 人工知能スキルの活用

変化し続ける働き方と問題解決能力の養成の重要性を認識し、教師の役割は日本語教育を通して学習者に人工知能時代に必要とされる能力を身につけるのを支援することである。

三、人間－機械のコラボレーション

1. AI 翻訳

機械翻訳の歴史は 1933 年にロシア人が特許を出願したことまで遡る。実用化に向けた第一歩は 1954 年にアメリカで踏み出されたという。

2. Google 翻訳

Google 社が 2016 年 11 月にニューラル機械翻訳のサービスを提供し始める。2023 年 8 月 8 日時点で 133 言語を提供している。2022 年時点で、Google 翻訳のみで毎日 5 億人以上が利用している。

3. DeepL 翻訳

2020 年 3 月から日本語翻訳サービスを提供する。

人間の翻訳者と通訳者は人工知能に置き換わると予想される職業に入っていない。教育部は、教育分野における AI ChatGPT の活用について、「学習ツールとして合理的で責任感のある態度で活用するよう、学生を指導すべき」との見解を示した。

4. メタバース教育の利点

(1) イマーシブな対話体験、(2) ビジュアル化、(3) 低コストと低リスク、(4) 時間と空間に制約されない、(5) 学術不正を防止、(6) 個別化、(7) コミュニケーション促進。

四、今後の展望

1. 国際・外国語学部の 123smart 国際外国語およびビジネス人材育成 2.0

学際的能力、実務能力、移動能力を備え、専門的な理論と実務経験、国際的な体験（ダブルディグリー、交換留学、国際教育（海外研修）および国際教授）を提供し、産業経験や資格取得を組み合わせている。

2. カリキュラム改革には、カリキュラム名、カリキュラム内容の調整、ICT（AI、AR、VR など）の取入れなどの活用。

3. 実務能力は、学生会の活動、映画、国内外のインターンシップ、企業訪問、

キャリアカウンセリングなどが必要。

4. イノベーション教育には、PBL、MOOC、共同授業、イノベーション教育と共有、教師の学際的（第二の専門分野）能力、ARCS などが必要。

徐興慶 中国語整理

陳順益 日本語

2023.09.17